

東京医科歯科大学の協力による第3回大腸病変講習会の開催

平成27年2月27日
在エクアドル日本国大使館

1. 背景

エクアドルでは大腸がんによる死亡率が高いことから、2012年8月にエクアドル保健省と東京医科歯科大学間で大腸がんスクリーニング実施のための協力覚書を締結して以来、大腸がん早期検診、予防のための事業（医療指導、シンポジウム、講習会等）が実施されてきました。

2. 講習会概要

- (1) 2月24日及び25日、エクアドル保健省パブロ・スアレス総合病院において第3回大腸病変講習会が開催されました。
- (2) 今次講習会は上記事業の一環として、当国の大腸がん検診に係る内視鏡技術及び予防、病理診断指導を主な目的として、パブロ・スアレス総合病院の要請により開催され、東京医科歯科大学ラテンアメリカ研究拠点（チリ）の椿特任教授、小田柿助教授、河内講師他が発表者として出席しました。
- (3) 講習会冒頭（24日）、板垣臨時代理大使より、今次講習会の成功と日・エクアドル医療協力の更なる発展を期待する旨の開会挨拶を行いました。
- (4) ロドリゲス保健次官より、東京医科歯科大学の協力に感謝するとともに、このような講習会を通じてがんの早期発見等を通じた国民の健康維持等を国家の政策として検討していきたい旨の挨拶がありました。

3. 今後の協力

当館としては、2018年の日・エクアドル国交樹立100周年に向けた医療協力の継続と更なる発展、医学分野を含む人的・学術交流の促進等において、可能な協力を行っていく予定です。

